



2013-2014 年
RI会長 ロン パートン
第 2640 地区ガバナー 久保治雄



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1786 回例会

平成 26 年 4 月 28 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「手に手つないで」

3. 出席報告

会員総数 50 名 出席者数名 34 名
出席率 68 % 前回修正出席率 92 %

4. 会長スピーチ



会長 小椋 孝一 君
皆さん、こんにちは。昨日
地区研修・協議会に山東エレ
クトはじめ、担当部門会議に
出席された皆さんご苦勞様で
した。また、今日の会員卓話
は宮田貞三さんの卓話です。
ご清聴よろしくお願い申し上
げます。

さて、明日 29 日(火)は生石高原の山開きが有ります。紀美野町と有田川町にまたがる県立自然公園の生石高原(標高 870 メートル)で本格的な行楽シーズンを前に山開きが行われます。県立公園生石公園観光協会主催により、午前 11 時から式典があり、登山者らの安全を祈願する神事、テープカット、乾杯でシーズン到来を告げる。春から夏にかけては関西の避暑地、秋には広大なススキ草原として知られる高原、当日は午後 12 時 30 分から地元グループによる太鼓演奏、午後 1 時 30 分から餅まきが企画されています。会員の皆さん時間があれば、是非お越し下さい。

5. 幹事報告

幹事 大谷 徹 君

○例会臨時変更のお知らせ

那智勝浦 R C 5 月 8 日(木) → 5 月 8 日(木)
12:30～ 熊野 R C (他クラブ訪問例会)

○休会のお知らせ

海南 R C 4 月 30 日(水)
那智勝浦 R C 5 月 1 日(木)
海南西 R C 5 月 1 日(木)
和歌山中 R C 5 月 2 日(金)

○5 月のロータリーレート

1 \$ = 102 円

6. 委員会報告

○親睦活動委員会

委員長 上野山 雅也 君

5 月 18 日(日)家族例会を淡路島方面で企画しています。参加よろしくお願いします。

7. 会員卓話

宮田 貞三 君



小椋会長、残り 2 ヶ月です。頑張ってください。会長スピーチも大変ですが、キウイ作りも大変です。キウイは 11 月に収穫して 12 月は肥料やり、1 月・2 月は剪定。3 月、4 月は、キウイの棚の直し、剪定した枝を集めて細かくチップにする作業、5 月は草刈り、6 月は受粉・摘果、7 月はフルメット付けと草刈り、8 月と 9 月は水やり、10 月は草刈りと 1 年間休みなく作業が待っています。しかし、珍しい出会いもあります。イノシシ、ハビ、アライグマ、タヌキ、ハクビシン等いろいろ捕れ、昨年は 60kg のイノシシ捕れました。今年は箱の置き場所を変えて大きいイノシシが捕れるのを楽しみにしています。

キウイ作りを始めてから 4 年経ちますが、農業をするのは初めてでした。その年剪定は 2 月までに終わるように言われていたのに 4 月になっても剪定が終わらず残りました。摘果も隣の畑が摘果しているのを見て摘果を始めましたが、摘果のできない木もあった。夏、水やりのタイミングがわからず、葉が丸くなって落ち出してから水やりをしたが枯れた木も出ました。後手、後手と回った 1 年でした。近頃やっと仕事の段取りがわかってきて、前もって準備が出来るようになりました。作業が遅れると木が弱り元にもどすのに大変な時間と労力がか



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 小椋 孝一

幹事: 大谷 徹

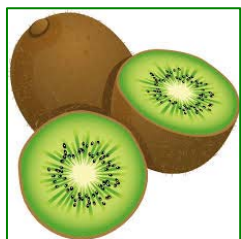
SAA: 重光 孝義

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

かります。

昨年は特に、地球温暖化の影響か7月・8月・9月日照が続き、池の水が干上がりました。これ以上に温暖化が進むと和歌山の特産のみかん・柿も作りにくくなり、高温に強い果物に転作する必要にせまられる。キウイは特に水をほしがる木で夏は毎日水やりがかかせません。



ロータリークラブが支援した環境保全の大切さを実感しました。環境保全事業は続けてほしい。

キウイの畑は北野上の下津野に4反、阪井に4反あります。阪井の4反は、昨年収穫の時から一峰会に渡しました。下津野の4反は一枚の畑でキウイが一面に植わっています。日当たり、風通しが良い畑ですが樹勢の悪い木が多くあります。阪井は1反ずつ4枚に分かれていてその間に槇の木が植わっています。槇の木はキウイにとって日当たりも風通しも悪くするじゃまな木ですがその方がキウイの樹勢が強いのです。種類の違う木が混じって植わってある方が互いに刺激し合って木の勢いが強くなる。

ロータリーもそうです。同じ意見の人ばかり集まった同好会ではロータリーは大きくも強くもなれない。いろんな意見の人が集まってこそ強くなるのです。今、地区で意見の違いが出てクラブでストレスがたまっている状態です。意見の違いが話し合い、最後はロータリーの寛容の精神と大人の度量で受け入れ、ストレスをバネにしてより強い地区にしてほしいと望んでいます。

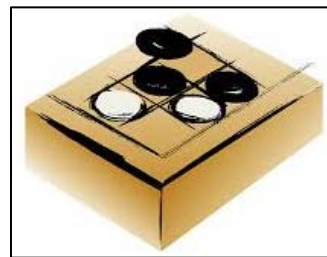
我家の嫁は、花壇の花に毎日キレイに咲いてネ、美しく咲いてくれて嬉しいわと声をかけると声かけした花は声を聞いて頑張ってキレイな花をつけてくれると言う。キウイもいっしょだ!!毎日キウイ畑に行って大きくなってネ!!美味しくなってネと言って!!そうするとキウイもこたえてくれるからと。私は嫁に毎日声かけをしてキウイ畑に行くよう言われています!ロータリーもそうです。毎週の例会に出席し、皆と顔を合わせ、声をかけあい、親睦を深めることが大切です。ロータリーは出席が第一です。出席率の向上は、まず奥様からロータリーへ出席するよう声かけしてもらうのが良い。

農作業を始めてから8時ごろ寝るようになりました。そうすると朝の2時頃に目が覚める。嫁も寝静まった一人の時間です。誰にもじゃまされない自由な男の時間。好きなビデオを毎晩こっそり一人で見る至福の時間!囲碁のビデオは、10秒、20秒、1、2、3お待ちくださいと秒読みするのでビデオをつけたまますぐ又寝てしまいます。

囲碁は今、中国・韓国では大人気で、子供たちの間でも流行っています。特に韓国は熱心で集中力を高めるのに学習塾より囲碁の塾へと子供達が通っています。私の友達の子供が小学校4年生から囲碁を習い始めました。動機は、囲碁で和歌山県代表になったら高校は推薦で入るからと。和歌山では囲碁をする子供は

少なく2勝すれば県代表になりました。彼は中学校、高校でも囲碁を続け、ネット碁を打つようになり、後々コンピュータにも興味を持ちその子は大学は阪大の理工学部合格しました。子供さん、孫さんを阪大へ行かせたいと思う方は、囲碁が良いようです。なんとって阪大ですから、早速合格祝いを持ってお祝いに行きました。私はてっきり囲碁のおかげで阪大の理工学部へ合格できたと言って喜ぶと思っていましたが、息子に医学部に行ってほしかったのと言われました!子供さんを医学部に入りたい方はやはり囲碁よりもアクセス総合学院をお勧めします。

囲碁は初手から終局まで考えると10の360乗の局面があるそうです。膨大な数です。これだけ膨大な打ち方があると打つ人によって考え方性格が違うので、打つ人の性格がゲームに



出ます。囲碁は一局打ち終えるまで膨大な局面が考えられる。よってミスをしないで一局を終わることは出来ない。囲碁はミスするゲームとも言われるし、ミスをして辛抱して打っていれば必ずチャンスが来るとも言われています。碁は人生にたとえられます。

オセロ・チェス・将棋はコンピュータが勝つ。囲碁は人間の方がコンピュータより強い。スゴイことです。私は当クラブの囲碁仲間と囲碁を通じて親睦をはかっていました。その時の思い出話をしたいと思います。岸さんのお父さんとは、仕事上の事務所へ訪ねて何度も対局しました。岸義郎さんは、軍隊で戦線へ行く途中夜中に列車が曲阜の町で止まった。戦争が終わって平和になったらこの町を訪ねてみたいとその時思ったと話されていました。休みを利用して中国へ、曲阜へ奥さんと旅行されるようになり、中国で緑色の碁石を買ってこられました。その緑の石で碁を打ったのが思い出です。緑の石で打つと白黒の石と違い、局面を見ると優しく感じられました。

岸さんは、いつも冷静に堅実に打つ方でした。中盤にかかると、お仕事では中間決算といいますが必ず形勢判断をする方でした。先日、岸友子さんから思い出の碁盤をいただきました。岸さんのように私も冷静な碁を打つようにします。塚本義信さんとは、自宅へ伺って碁を打たせてもらいました。床の間に上がらしてもらって碁を打ちました。碁を打ち始めると、奥さんがお酒を持ってあらわれ、碁を打っている二人の横に座り、お酌をしてくれるのです。お酌をしてもらって碁を打つというのは、後にも先にもこれが初めてで一番の思い出です。どのような碁を打ったのか、勝ったのか、負けたのかまったく覚えていませんが、お酒はほとんど私が飲んでいったような気がします。塚本さんの奥様、その節は大変ご迷惑をおかけしました。

ネット碁で強くなったのが、今プロ棋士界でNo.1の井山裕太名人。日本の7大タイトル戦の内6冠を取っています。アジア早碁選手権で17年ぶりに中国

の代表、韓国の代表に勝って優勝しました。

林孝次郎さんもネット碁専門です。碁はネットで打つだけ。そうすると碁盤、碁石はいらなくなります。林さんのような方が増えてくると碁盤、碁石、日本棋院の免許制度等の日本の囲碁文化も変わってなくなってしまうかも！

林さんとはやはりネットで打ちました。初めて打ったときは、クラブでお会いする人柄通りの棋風でつきあいのよい丁寧な打ち方でした。2回目に打った時は、全体の形勢を見て、まずじっくりと自分の石を強くしてから相手の石を攻める。大きい所を先手で打つようになっていました。ネット碁で益々強くなられています。田村健治さんは桃太郎がそのまま大人になったような方でした。碁もその通りでした。碁を打ち始めると常時ひとり言を言いながらよくばやくのです。そこへ打つの!!困るじゃない!!アレ私の石が死ぬのと同じがう!!等々正直に今考えていることを口に出します。

(碁では相手の石に囲まれて取られるのを死ぬと言います) 彼は職業柄、たとえ碁であつても石が死ぬことを嫌いました。相手の石と攻めあいになるとばやきながら田村さんは用心深く生きる手を一番先に確認します。その時、主治医を頼むなら彼だと確信しました。会心の碁が打てた時は、記念にデジカメに撮ったり、負けた碁は家に帰ってから始めから打ち直し、検討したりプロ棋士に手直ししてもらったりと碁も大好きで研究熱心な方でした。昨年の突然の出来事はとても残念でなりません。山本敬作さん。彼が設計した本棚をロータリーで海南駅に寄贈しました。内海の特産であつた和傘をモチーフにした作品です。現在古い本が多いので新刊書を補充できればよいのに!彼は体型は林さんに似て痩せ型でしたが碁はまったく違って山本さんは相手の打った石には見向きもせず想像力豊かに自分の石を大きく構え大模様を広げます。大型の建物を建てるように個性が強い碁を打たれました。一方いろいろと心遣いもされる方で、私にもお客様を紹介してくれました。岡田雅晶さん。クラブではいつも笑顔を絶やさずいやみな事は言わず、頼まれたクラブの役は断らない。人徳があり、最高のロータリアンでした。私とはまったく正反対の方です。碁はやさしい碁を打つのか、それとも厳しい碁なのか、長年打ってもらうのを楽しみにしていました。やっとその機会が来ました。対局してみても岡田さんは石を包み込むように弾力性のあるやわらかい手を打ってきます。私は彼が打った石の狙いがわからないまま対局は終わってしまいました。わかったことは岡田さんが強すぎたということでした。

私の棋風は、岸さんのように冷静に、山本さんのように大模様に、林さんのように大局を見て岡田さんのように包み込むようなやわらかい手を打つように心掛けています。しかし、いざ碁盤の前に座って石を持つと相手の石をはねる手、切る手、除く手、さいて出る手、押え込む手、あげくは何とか殺す方法はないか、激しい手ばかり考えています。こんな私の棋風は皆から好かれなようです。なぜなら私が会長の年度に、

岡田さん、塚本さん、山本さんが退会されました。

ロータリーとキウイについて本日の結論です。キウイ作りを始めてから好きな碁を打つ時間もありません。どうか次年度の会長さん、幹事さん、キウイを作っている間はロータリーの役をお休みさせて下さい。お願い申し上げます。

8. 閉会点鐘

次回例会

第 1787 回例会 平成 26 年 5 月 12 日(月)

海南商工会議所 4F 18:30~

【夜間例会】 お誕生日、結婚記念日のお祝い



ニコニコ・BOX

山東 剛一 君	昨日の地区協議会、懇親会、ご出席の皆様ご苦労さまでした。
柳生 享男 君	昨日 地区研修・協議会参加の皆様ご苦労様でした。
谷脇 良樹 君	昨日の地区協議会山東エレクトありがとうございました。長い一日でした。
中西 秀文 君	昨日、山東さんお世話になりました。
小椋 孝一 君	地区協議会 欠席しました。すみません。
重光 孝義 君	昨日地区協議会欠席しました。すみませんでした。
寺下 卓 君	欠席ばかりですすみませんでした。地区協議会も欠席で済みません。
宮田 貞三 君	お願いの卓話です。よろしく願います。
魚谷 幸司 君	昨日地区協議会では、清楚で行かなければ、ならないのにゴルフ帰りみたいな格好で行ってしまいましたすみませんでした。
I DM 5 組	I DMの残金です。
宮田 (敬)・楠部、谷脇、平尾 君	先日の残金です。

Rotary  ロータリージャパン

庭先の「小さな図書館」

読書を愛した亡き母への想いから

「小さな図書館」とは、ニューヨークタイムズ紙が「世界的な運動」と呼び、日本でも話題になった本の貸し出し運動です。参加者は、鳥小屋のような、小さな箱を庭先や勤務先に設置して、通りがかった人に無償で本を提供します。本を読んだ人は、別の本を“お返し”することができます世界50カ国以上に広がったこの運動は、ウィスコンシン州の小さな町ハドソンで

始まりました。考案者は、ロータリー会員のトッド・ボルさん。読書をこよなく愛した母親への思いから、家の庭先に小さな図書館を設置しました。



書家だけではなく、多くの人が参加できる活動だとボルさんは話します。例えば、アーティストが小さな図書館

のデザインを考え、職業訓練として刑務所の服役者がそれを組み立て、地域社会への恩返しとして企業が図書館を設置する、といったことも。世界各地のロータリークラブやローターアクトクラブも参加しています。参加者の多くは、自らの手で小さな図書館を作ることを選びますが、既製品を購入することもできます。収益は、運営費や識字プログラムの費用に当てられます。詳しくは：www.littlefreelibrary.org

ひとりの行動が、地域社会を育む活動に

2009年に最初の小さな図書館を設置してから間もなく、ボルさんは、地域発展を専門とするリック・ブルックさんと出会い、共同で非営利団体「Little Free Library（小さな図書館）」の運営を始めました。最初は自分たちで小さな図書館を作っていましたが、注文に追いつけなくなったため、アーミッシュ（現代技術を用いずに生活する人たち）の職人を雇うことに。さらに噂は広まって、2012年8月には2,510箱の小さな図書館が設置されました。

今日、ボルさんとブルックさんは、「人と人との関係を築き、読み書きする力を伸ばし、隣人同士の会話を促す」ことに力を入れています。また、全米退職者協会（AARP）とパートナーシップを結び、高齢者のための施設に小さな図書館を設置、地域住民を交えたふれあいの場を作っています。

「小さな図書館」を世界に

「私とシャベルがあるだけじゃ、小さな図書館を普及させることはできない」とボルさん。非営利団体「小さな図書館」は、アフリカの地域社会や、公共図書館がない米国の町で図書館を設置する取り組みも行っていますが、そこで、ロータリアンが大きな力となります。「ロータリアンが力を出し合えば、2カ月でもっと多くの町に小さな図書館を設置できる」ボルさんは、そう信じています。一例として、米国インディアナ州のフォートウェイン・ロータリークラブは、2015年のクラブ創設100周年を記念して、小さな図書館100箱の設置に取り組んでいます。最初の箱を設置したときに地元紙で活動紹介をしたところ、1時間で6件もの設置を希望する申し出を受けました。設置にかかる費用はクラブが支払い、その代わりに、クラブ名を箱に表示させてもらいました。「驚くほどの反響があった」とクラブ会員のキャンデース・シューラーさんは振り返ります。2013年11月、非営利組織「小さな図書館」は、全米図書協会から全米図書賞を受賞。共同運営者のボ

ルさんとブルックさんは、その年の「Movers and Shakers（最も大きな影響を与えた人）」に選ばれました。

「つくづく、自分は幸運だと感じる」とボルさん。庭先に種をまいたら、鳥たちがやってきて世界中に種を運んでいってくれた。そんな謙虚な気持ちで、ボルさんは自らの活動を振り返りました。

（記事：Diana Schoberg「ザ・ロータリアン」誌2014年3月号からの抜粋）

ロータリーを通じて知った本当の親善

ロータリー奨学生 アーティス・ヘンダーソン

私は、ロータリー奨学生として西アフリカ文学を学ぶため、セネガルの大学に行くことにしました。

セネガルに到着してしばらくした暑いある日、私は友だちからのアドバイスに従い指輪を買うために、街へ出かけました。細い道を歩いてある宝石店に入ると年老いた店の主人が半分居眠りしていたので、「銀の結婚指輪はありますか」と聞くと、老人は、布袋一杯の指輪をショーケースの上にばらまきながら、どこから来たのかと聞きます。私が「米国です」と答えると、その老人は前に乗り出し、「じゃ、なぜイスラム教徒に戦争を仕掛けるのか説明してもらおうじゃないか」と言うのです。私は、自分でもよく分かってもいない紛争について説明しようとしてしました。そして、夫が戦死したこと、その戦争はイスラム教徒に対するものではなかったことも説明しようとしてしましたが、老人の怒りは収まりません。私はすぐごと店を出ていくしかありませんでした。その頃はちょうど「アラブの春」と呼ばれた時期で、あちこちで人々が体制に反発して蜂起し、ダカールでも学生たちがタイヤに火をつけたり、道路を遮断して抗議行動を起こしていたのです。しかし、セネガルでの滞在は私にとって大切な宝物となりました。大手の出版社から、夫の死を巡る回想録を出版したいという要望があり、あの体験を本にすることで悲しみを乗り越える機会が得られたのです。最初の一か月滞在したホストファミリーはとても温かい人たちで、おかげでアフリカでの生活に慣れることができ、しかも長男のムーサは、私と同じくジャーナリスト。とてもいい友人になりました。

その後まもなくムーサは病気で急死。お葬式で僧侶が追悼の祈りをささげている間、私は家族と一緒に、涙が止まらなかったのを覚えています。葬儀から一か月ほどたったころ、ムーサの家族が食事に呼んでくれました。食後、母親と私は外で一緒に座り、沈黙のまま過ごしました。そしてしばらくすると母親が静かに私の手を取りました。子供を失った母親の悲しみを本当に理解することは不可能でも、その手から悲しみの深さが伝わってきました。

親善というものは、一対一の心の触れ合いから生まれるものだということ。その時私は、そのことに気づきました。

4月は雑誌月間です